

『僕にとっての剣道』

北海道

真駒内少年剣道会

中学2年 橋本 陸

自分にとって剣道とは、一体何なのだろう。最近では、しばしばそう考える。小学校一年生から始めて、早くも八年目になる。そんな今になって、自分の中の「剣道」の存在が、よく分からなくなっている。

僕が剣道に出会ったのは、約八年と半年前、親の勧めからだった。その理由と言えば、家から道場が近かったから。親戚に剣道経験者がいたわけでも無く、始まりは些細なものだ。しかしながら、他にもある選択肢の中から選んだ答えは、今でもそれを続ける程の大きなものだった。防具を着けた姿、そして竹刀を自由自在に扱い、相手から一本を取っていく姿に惹かれ、剣道を選んだのだった。

剣道を始めたばかりの頃の自分は、どんな様子だったのか、なかなか思い出せない。しかし、友達と共に楽しんでいたのではないのだろうか。最初は体力作りの運動や足さばきの練習ばかりだった。まだ道着を着ずにジャージ姿で日々の練習を頑張った。やがて竹刀を持って、素振りをするようになったり、道着を着るようになったりと、少しずつ本格的になっていった。この頃の基礎中の基礎の練習は、とても大事だと思う。もう少し頑張っていれば、と今更後悔をしている。それでも、真駒内少年剣道会では、先生方や仲間達に恵まれて、良かったと思う。

その後、一年、二年経つと、少しずつ環境が変わってきた。防具や面を着けて、先輩、後輩と一緒に稽古に取り組むようになったり、道場の先生も違う人に変わったりした。そういった環境の変化は、当時の自分にとっては大変だったに違いない。先輩方の力強い打ち方は、痛くてつらかった憶えがある。

それからさらに月日経ち、小学校中学年頃からは、剣道を辞めたい、という気持ちが出てきた。なかなか思い通りにいかず、剣道を真剣に、そして楽しむ気持ちが薄れていった。それによって深く落ち込み、周りとの遅れにも拍車がかかっていった。そんな中で、再びモチベーションを上げるのは困難だった。

それでも僕は、絶対に負けたくないと思い、日々の稽古に力を入れた。劣等感がエンジンになったのだ。剣道に対する意識も少しずつ変わっていった。どうすれば上手になるのだろうか、どうすれば勝てるようになるのか、考えている。

年齢が上がるにつれて後輩は増え、先輩は減り、のんびりしている暇は無くなった。その場に合せて自分で考えて行動する。先輩としての壁は、自分にとって大きいものだ。

それは、中学二年生になった今でも、立ち塞がっている。どうしてもまだ、先輩を頼ってしまうことが問題点だ。少しずつでも、自ら進んで取り組み、自立できるようになりた

い。これは、剣道だけではなく、日々の生活の中でも意識していかなければならないと思うので、頑張っていきたい。

今現在も、まだ悩んでいる。スランプと言うのだろうか、なかなか上手くいかない。大会でも良い動きが全然できないのだ。これからも、先生の教えを守りながら、仲間と共に頑張っていきたい。毎日の稽古で、よく考え、素早く行動することを意識していく。

今一度、初心にかえて自分の剣道を見直してみようか。自分にとって剣道とは、どのような存在なのか改めて考えてみる。その上で、基礎練習から、応用技まで、高い意識を持って取り組んでいきたい。

今年度に入って、もう六ヶ月が過ぎた。あっという間で、目まぐるしい毎日だった。これから先、六ヶ月もないが、三年生となり、皆を引っ張っていけるように頑張りたい。そのために友達との協力も大切にしていく。行く末は分からないが、「今」を精一杯、時間を大切に、できることから取り組んでいこう。